

平成25年度 東京都優秀技能者(東京マイスター)知事賞表彰者一覧

平成25年度表彰者一覧

被贈呈者数:40名(男性:36名、女性4名)、平均年齢:61.1歳(最年長82歳、最年少39歳)

職種	表彰者氏名及び所属名	ふりがな	性別	年齢	技能・功績の概要
フライス盤工	畠山 行雄 キャンホン株式会社 下丸子事業所	はたけやま ゆきお	男	46	フライス盤と旋盤の卓越した技能を礎に、設計者と共同で製品の基幹技術を開発し、新製品の具現化に向け「ものづくり先駆者」として貢献した。特に、汎用機械から数値制御機械への変革において、試作用CAD/CAMシステムの構築で技能と技術の橋渡しを主導し、試作機械加工の革新への多大な貢献とキャンホン製品の問題解決や品質向上に大きく寄与している。
歯切盤工	和田 紀一 坂西精機株式会社	わだ のりかず	男	72	ホブ盤・汎用旋盤をはじめとする金属加工の技能に優れ、当時は素切では加工困難とされていた旧JIS1級の精度の歯車を自身の手で製作した。また、歯車切削工具について、製品の歯形形状および精度を実現するための種々の知識を有し、本来なら加工が困難な歯形形状も切削刃具を自ら設計・製作するなどの工夫を行っている。
研ま盤工	八木 正 日野自動車株式会社	やぎ まさし	男	54	新製品開発時の試験・試作用部品を製作する機械加工作業に長年従事し、研ま盤作業に優れている。特に、平面研削盤では、砥石を回転させ、加工面を研削する機械を操作しながら図面指示寸法(0.001mm単位)に対して、研削時の火花の出具合や音で判断し仕上げる事が出来る。自動車の新製品開発で、豊富な知識、経験から数多くの考案、改善を行う力がある。
金属特殊加工機工	谷内 啓二 有限会社 谷啓製作所	たにうち けいじ	男	82	汎用旋盤における金型製作に従事し、様々な技術的課題の解決に貢献する。缶の蓋を開ける際、切り口で指を切らないよう設計されたダブルセーフティー・ブルトップ缶の開発が有名で、その技術はスペースシャトルディスカバリー号で活用されるなど、世界中で使用される。複雑な形状の製品加工や金型製作を行い、誤差数ミクロンの極めて高い精度で加工することができる。
製缶工	久木原 勇樹 株式会社東芝 府中事業所	くきはら ゆうき	男	41	発電所向中央制御盤の管体溶接技能、ガス密閉式閉鎖配電盤(C-GIS)機密溶接技能(厚板鋼板溶接・気密溶接)等、製缶・溶接構造物製造で培った、高度な技能と知識を活かし、高品質な製品の供給を行っている。電力向け耐震構造管体の開発では、強度を維持した構造変更を実現し、品質維持しながら、コスト削減と製造納期短縮のできる製品を開発した。
金属研ま工	市村 公一 有限会社 丸一研磨工業所	いちむら こういち	男	72	半世紀以上、金属研磨に従事し、オーダーメイドの工具の研磨に特に優れている。顧客から提示される金型や機械の設計図面を基にすり合わせる際、切削具合や気温による金属の膨張をも考慮するため、切削工具の素材や金型が加工される環境もヒアリングし、ミクロン単位での精度を追求して最適な工具を提案している。
彫金工	数本 謙次 (芳筆) 数本彫刻	かずもと けんじ	男	69	伝統工芸である東京銀器の彫金技術技法について長年腕を磨き、高級な金銀器への文字彫刻を数多く手がけるほか、銀のやかんに四君子・龍・虎の図柄を描く挑戦もしている。長嶋氏、松井氏が国民栄誉賞を受賞した際に贈られたバットに、安倍総理大臣直筆の文字を忠実に彫り込む仕事も受注するほどの腕前である。
アーク溶接工	柴田 守 株式会社東芝 府中事業所	しばた まもる	男	39	鉄道車両用の制御装置管体、モータフレーム、機関車車体など鉄道車両用製缶溶接構造物全般の技量と知識を幅広く有している。特に、アルミ製管体の製造において卓越した技能・ノウハウを持ち、現在の施工方法や作業の標準化にもその技能は活かされ、生産性向上改善・業務改善に大きく寄与している。
配電盤・制御盤組立・調整工	水沼 直人 株式会社東芝 府中事業所	みずぬま なおと	男	42	公共・官需施設・電鉄向け監視制御装置組立に長年従事し、配電盤・制御盤組立に関する強電分野から、計装装置組立に代表される電子機器の範囲まで、幅広く高度な技能を有する。経験に裏付けされたノウハウは製品開発や標準化に、高いIE技術と斬新な発想は業務改善に活かされている。認定職業訓練や技能検定など、後進の育成にも熱心である。
電気配線工事業者	志賀 耕次 株式会社 関電工	しが こうじ	男	46	入社以来28年間、新築やリニューアルの建築電気設備工事の施工に携わり、施工能力の向上と電気保安に務め、品質・安全の向上に貢献した。リニューアル改修工事では、停電作業時のキュービクル内部機器の状態表示の見える化を図り、事故防止に努めた。また、社内で座学講師や、パトロールを通じた安全な施工方法指導など、後進指導に努めている。

職種	表彰者氏名及び所属名	ふりがな	性別	年齢	技能・功績の概要
友禅染工	大久保 紀保	おおくぼ のりやす	男	72	東京友禅染の製作に長年従事しており、作品は、多くの顧客や同業者より高い評価を受けている。また、分業製作が一般的となった今日においても、全工程を一人で担う数少ない工芸士である。古典的な作風に強いこだわりを持っており、古典柄を多く手がけるほか、伝統的な基本の五色のみで無限の色彩を生み出すことに挑戦し続けている。
染色仕上工	小林 一通 染色補正 彩徳	こばやし かずみち	男	64	第24回技能グランプリで優勝した実力を持つ。特に色ヤケ直し、地直し作業は業界で一番と言われ、新品の着物をも扱うことのできる技能は、数ある職人の中でも突出している。また、安易に薬品に頼らず、技能を優先することで、生地傷みを軽減し数年先まで変色が出ないよう心がけている。優勝後は、技術を業界に還元すべく、弟子を育成し独立させるなど、技能継承に尽力している。
ひも製造工	平田 晃 (二代目 竹峯) 株式会社平田組紐	ひらた あきら	男	62	東京組紐の製作に長年従事し、優れた技能を有している。日本古来の技術を生かしつつ新製品の製作に積極的に取り組んでいる。斬新なアイデアで作られる品々は、多くの顧客や同業者より高い評価を受けている。また、他の工芸品とのコラボレーションや、海外展開を行うなど伝統工芸全般の普及・啓発に貢献している。
足袋仕立工	石井 芳和 向島めうがや	いしい よしかず	男	62	足袋製作の全工程(採寸、型紙作り、生地裁断、縫製、仕上げ)を手作業で行う、全国的に非常に希少な職人である。また、特に技術的に難しいとされる型紙作りと縫製は、石井氏が得意とするところである。型紙作りは、平面の生地から、完成した立体的な足袋の形をイメージする能力が必要である。4種類6台のミシンを使用するが、指先部分を立体的に縫い合わせる「つま付け」の難しい作業を行うことができる。
和服仕立職	荒井 光子 荒井和裁	あらい みつこ	女	73	留袖、訪問着、子供物など和服全般の縫製技能に優れている。また、縫製の傍ら、着付け(他装)も研究しており、着付けという観点から裁断方法、採寸方法を追究することにより、着やすい着物製作の普及に努めている。着装に基づく着物の繰越、着物の下に着る長襦袢の半襟、衣紋抜き制作の技能は、業界でも抜きん出ている。
和服仕立職	根本 達夫 根本和裁所	ねもと たつお	男	62	根本和裁所の二代目として、受け継がれた技能や知識を基に、新しい着物やコートの開発に努めている。簡易着用が可能な振袖や、技術的に困難とされてきた、立衿が単衣のコート(立衿単衣新型変り衿コート)を新しい縫製技術の考案により開発した。また、若手技能者の育成にも熱心であり、所属の組合や技能士会での各種講師を務めてきた。
タイル張り工	桑原 哲夫 桑原タイル工業	くわばら てつお	男	63	タイル張り職人として名高い父親の営む「桑原タイル工業」に入職し、40年以上その道一筋に精進し、数々の国家資格を取得、多くの表彰を受けている。伝統的な積上げ張り工法を基本に、多様なタイル張り技能を修得し、タイル本来の魅力や美しい意匠を表現する施工難度の高い物件を多数手がける。検定委員を務め、小学校でのタイルモザイク教室を行うなど、後進の指導・育成に努めている。
ガラス吹工	篠原 裕 有限会社 篠原風鈴本舗	しのはら ゆたか	男	63	大正4年創業の篠原風鈴本舗の三代目として、江戸時代に始まるガラス風鈴の伝統を守り続けるとともに、後進の指導・育成に貢献した。「伝統工芸を守るだけではなく、生かす」という考えのもと、創意工夫を凝らし、幅広い世代に愛される風鈴を製作しているほか、美大生とのコラボレーションによる新商品開発にも意欲的に取り組んでいる。
指物職	土倉 昭夫 土倉木工所	つちくら あきお	男	71	硬い唐木の性質を熟知しており、箱ものだけでなく寄木などの一寸の狂いも許さない細工は秀逸である。木取り、削り、組立、漆塗りといった一連の工程を一人で手掛けることができ、特に部材の削りと組立の技術に優れている。また、先人の製品の修復など、伝統的工芸品の保存に尽力する一方、異業種との共同制作など先進的な取組にも果敢に挑戦する姿勢は高く評価されている。
指物職	茂上 豊 茂上工芸	もがみ ゆたか	男	60	江戸指物の製造に長年従事しながら培った幅広い知識、優れた技能を有しており、全てのホヅ組み技法に熟達している。特に、留め型隠蟻組継ぎ(とめがたかくしありくみつき)や榎組(かまちぐみ)の技法に優れ、各展示会において、現代的で小粋な江戸指物の新作を毎年発表している。技能継承にも熱心であり、講師を務めたり、後継者を育成したりしている。

職種	表彰者氏名及び所属名	ふりがな	性別	年齢	技能・功績の概要
洋生菓子製造工	室松 孝育 有限会社 ラ・フィエユ	むろまつ こうすけ	男	62	欧州と日本の洋菓子の技術レベルに大きな差があった当時、渡仏して習得した技術と語学力を活かして、日本の洋菓子技術の向上に貢献した。特に、ボルドー地域の菓子「カヌレ」を紹介し、日本のデザート菓子のレベルアップに大いに貢献した。また、各種コンクールの審査員、技能検定委員や講習会の講師を務めるなど、後進の育成に熱心である。
理容師	酒井 晴男 有限会社 セイカ	さかい はるお	男	61	理容師として優秀な技能を活かし、毛髪に質感を求める消費者ニーズに応えるため、ブローテクニックの技術と理論の確立に尽力した。ブロー処理において毛髪の質感を表現するメッシュヘアのブラシワークの技能は極めて優れている。また、審査会の審査員を務めたほか、「見て覚える」指導方法から、体系化された技能習得方法へと転換するなど、後進の育成に努めている。
美容師	荘司 礼子 学校法人 国際文化学園	しょうじ れいこ	女	64	美容全般、特に着付に関する広範な知識と優れた技能を持ち、衣紋道高倉流たかくら会東京道場会頭を務めながら、専門学校等の講義や書物による後進への教授により、美容技術の向上と着付という日本の伝統文化の継承に貢献した。「お客様本位の技術」を旨とし着心地が良く、補正の少ない着付技術の高さは業界外にも広く知られる。技能五輪国際大会の審査員も務め、後進の育成に貢献している。
美容師	田川 映里 (渡邊 映里) リュミエール とも	たがわ えり	女	44	1996年世界理美容技術選手権大会に出場し、日本を団体優勝に導くほどの技能を有する。また、カット、パーマ、カラー等、美容全般における技術指導を広く行うほか、ニューヘアファッションの創作・発表によりその技能を広めるべく精力的に活動している。様々な美容関連団体にて後進技術者に対し、基礎技術から理論まで幅広く指導・育成に努め、業界のために幅広く活動している。
日本料理調理人	佐藤 茂男 株式会社 なだ万	さとう しげお	男	62	長きにわたり(株)なだ万に勤務し、老舗料亭ならではの日本料理の伝統と品位を守りながらも、現代人の嗜好にマッチした料理を作る技能を有する。特に、世界の食材や調味料を取り入れて新しい日本料理の味を創作し、業界誌やメディアを通して普及させた功績は高く評価され、新感覚のメニュー開発の第一人者と目されている。
日本料理調理人	富澤 浩一 日本料理 よし邑	とみざわ ひろかず	男	51	伝統的な日本料理の技能に基づき、多様な素材活用と技術の応用による現代的な会席料理の技能に優れ、卓越した色彩表現、器使い、盛付の技能を有し多くの功績を残している。その功績は国内に留まる事なく、海外でも高い評価を得ている。また、黄身クリームや鱸竹焼きなど、新たなメニューの開発にも積極的に取り組んでいる。
日本料理調理人	吉野 隆司 株式会社 亀清楼	よしの たかし	男	61	関西料理の卓越した調理技能を有し、特に、会席料理と喰切り料理の技能に優れている。江戸料理の伝統的な味を守りながら、時代に合うように創意工夫を加え、さらに素材の効率的使用の調理法を考案し、現代的な江戸料理を提供している。また、展示会、講習会、日本料理専門誌を通じて後進技能者の指導・育成に尽力している。
西洋料理調理人	伊藤 俊幸 株式会社 プリンスホテル	いとう としゆき	男	63	昭和43年に高輪プリンスホテルに入社以来、44年間技能の習得に励んできた。フランス料理の生みの親であるオーギュスト・エスコフィエの料理と理念を基本に、現代フランス料理との融合に尽力し、時代に合った新しいレシピやメニューを多く作った。また、ピエールテタンジュ国際料理コンクールの優勝者を育成したほか、各種コンクールの審査員や講習会講師を務める。
中華料理調理人	鈴木 豊 株式会社 ジェイシティー	すずき ゆたか	男	64	中国上海四川料理の調理技能全般に通曉し、特に、畜産副生物を利用した調理技能に長けている。その技能を応用して畜産副生物の利用拡大に寄与し、一般消費者への中国料理の普及啓発に貢献した。また電磁調理機器の取扱いに長け、その技能を各種メディアやイベントで積極的に公開して、日本の中国料理の作業環境改善に貢献している。
バーテンダー	上田 和男 テンダー	うえだ かずお	男	69	花道や茶道といった、日本人独特の「道」という作法は、カクテル作りにも存在するとして、独自の「カクテル道」という概念を唱えた業界の第一人者である。カクテルの仕上がりに空気(気泡)を取り込むハード・シェイクや斬新なスノー・スタイルを考案し、その日本独自の調合技術は国内外に広まり、確立されている。

職種	表彰者氏名及び所属名	ふりがな	性別	年齢	技能・功績の概要
バーテンダー	保志 雄一 バー保志	ほし ゆういち	男	56	バーテンダーとして長年技能の研鑽に励み、優れた技能を有している。特に、果皮を使ったデコレーションに関しては草分け的存在であり、フルーツのカッティング技能も研究してきた。また、日本酒や海外の酒をベースにしたカクテルの開発にも成功するなど、新しいカクテル文化の普及にも努めている。
家具類内張工	上柳 征信 株式会社 I.S.U.house上柳	かみやなぎ まさのぶ	男	41	欧米で学んだ経験を生かして、各国の伝統的な椅子張り技法を基にしたクラシックスタイルの椅子を作る専門的スキルは非常に優れている。また、伝統的な椅子張り製法だけでなく、海外の技法も取り入れながら、他に類の無い製品を多数完成させてきた。メディアにも多数取り上げられ、後進の模範的な存在となっている。
表具師	田中 正武 有限会社 アイディ・タナカ	たなか まさたけ	男	71	東京芸術大学大学院和紙研究会にて、伝統的和紙の特性を研究してきた経験を活かし、伝統的な襖・屏風・掛軸・額など、表具の製作に努めている。また、その研究成果を発揮した古書画等の文化財保存修作業は、後進の目標ともなっており、業界の発展に繋がるものである。
襖・屏風・壁装 製作工	渡辺 順 有限会社 岩崎襖工業	わたなべ じゅん	男	60	表具、屏風、壁装の製作に優れている。表具製作は、紙や布を裏打ちして正確に切り継ぎし、貼り付ける技能が必要だが、正方形、正五角形、正六角形、正八角形も道具を使わずに正確に作成できる。壁装では、ビニール素材だけでなく、高度な技術が必要な布張り、和紙張りも施工できる。屏風製作には、襖に用いられる障子をはめ込む中抜きという技で工夫する。
和楽器組立工	片切 利幸 片切琴三味線店	かたぎり としゆき	男	71	精妙で良い音色の琴を作るには、伝統的な手作りの技能が絶対的に必要だという考えのもと、54年にわたり、日本の伝統楽器である琴を、伝統的技法で終始一貫して手作りしている。その一方で、絃のかけ方を改良して二つの音域を出せるようにしたり、演奏時の事故を防ぐ台座の破壊離脱防止措置を考案したり、改良・工夫を重ね、業界に貢献している。
染色用刷毛 製造工	齋藤 正一郎	さいとう しょういちろう	男	77	56年にわたり、染物用の刷毛(丸刷毛、引刷毛)を専門に製作している。染物用刷毛は東京都の伝統的染物技術である更紗染や小紋染には不可欠な道具であり、現在、都内において、現役で染物用刷毛を専門に手がけるのは齋藤氏のみであり、貴重な職人である。染物職人の求めに応じた大きさ・毛質の刷毛を自在に製作でき、その製品の評価も非常に高い。
貴金属細工 加工工	高石 康幸 株式会社 ミキモト装身具	たかいし やすたか	男	61	貴金属宝飾品の細工加工において、極めて難易度の高いミキモトブランドの逸品のリング制作に従事している。高級宝飾品を手作りで作ることができ、透かし彫りの技法は特に貴重である。また、主要工具の糸鋸、タガネ、ヤスリ、ヤットコを常に創意工夫して巧みに扱い、平面で描かれたデザインを立体的にイメージし、製品化する技能は特に優れている。
印章彫刻工	北村 和雄 (鐘石) 有限会社 青雲堂印房	きたむら かずお	男	56	印章彫刻作業に長年従事し、全ての工程に優秀な技能を有する。特に、木口印章彫刻技能及び篆刻技能に秀でている。書(文字)の美を基本としながら、印刀技術による究極の線の細さを追求している。また、実用印には、印刀の切り込みに微細な角度をつけ安定性にも配慮している。文字の調和と配置、芸術性を加味した作風である。
フラワー装飾師	今野 政代 株式会社 ベル・フルール	こんの まさよ	女	62	日本の花文化のいけばなと欧米の花弁(かき)装飾を融合し、花卉植物が本来持つ特性と日本の風土を生かした花卉装飾の方法を提案してきた。また、日本初のプリザーブドフラワー専門書を発行し全国に技術を広めたり、都立高校等で「花育」という講義を行ったりしながら、技能の継承に努めている。
洗張工	関根 清司 百足屋	せきね きよし	男	74	正統で貴重な洗張り技能と、真摯な研究や努力によって、江戸時代より続く老舗を継承する技能を持ち、和服再生ができる洗張り工である。特に、染み抜きについては研究を重ねており、桃の種芯をジュースーにかけてものを糊に混ぜて、刷毛引きするという独自の方法を編み出した。